令和２年
敬老作文集

敬老作文コンクール入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行われました。

義務教育学校２年生、５年生、８年生を対象として敬老作文の応募をいただき、全体から最優秀賞１点、２年生、５年生、８年生それぞれから優秀賞３点ずつの計 10 点の入賞作品が決まりました。

入賞された方々の敬老作文を、ご紹介します。

最優秀賞

愛いっぱいの私の祖父母

義務教育学校八年　貝田 結夏

貝田 結夏 さん
（街　道）

私の祖父母は、いつもニコニコしている。前に一度、「どうしていつも笑っているの。」と聞いてみたことがある。そうすると祖父母は、とびっきりの笑顔で「ゆいかちゃんが大好きだから。」と答えてくれた。そんな優しくてかわいい二人が私も大好きだ。

私は小さい頃から、年の離れた兄達が試合だったり親が忙しかったりと、よく祖父母の家にお世話になっていた。でも、同じ家に住む家族とずっと一緒にいれないことが、幼い私にとってはとても辛くさみしいことだった。その八つ当たりから、私はよく祖父母に反抗して困らせていた。私の事を思ってしてくれた行動にも文句を言い、たくさん悲しい思いをさせてしまった。ごめんなさい。今では心からそう思う。

私の祖父母はとても仲がいい。よく言い合いもしているけど、気付けば仲直りしている。前に一度、祖父に「おばあちゃん愛してるって伝えて来て。」と言われたことがある。自分の口で言うのは恥ずかしいらしい。私が幼い時の出来事だけど、なぜかよく覚えている。お互いに照れ屋だけど、心の底からお互いを愛している。そんな関係がとても素敵で、私も将来、そんな風になりたいと思った。

たくさん迷惑をかけてきたけど、いつでも私の味方でいてくれる、愛であふれた祖父母が私は大好きだ。そんな二人にいつまでも長生きしてほしい。

優秀賞

パワフルおばあちゃん

義務教育学校二年　伊藤 匠真

伊藤 匠真 さん
（上　村）

ぼくのおばあちゃんは、やさしいおばあちゃんです。いつもぼくとあそんでくれます。ぼくが学校からかえってくると、いっしょにバトミントンやボールあそびをしてくれます。

それだけではありません。ぼくがスケートボードにのってあそんでいると、「おばあちゃんものせて。」と言ってスケートボードにのったら、すべってしりもちをついてしまいました。だけどおばあちゃんは、にこにこわらっていました。

ぼくがポッピングであそんでいると、「おばあちゃんにもやらせて。」と言ってポッピングにのったらバランスをくずしてころんでしまいました。

ぼくはびっくりしました。

頭に大きなたんこぶができたけどおばあちゃんは「いてて。」と言ってやっぱりわらっていました。

ぼくは、そんなパワフルなおばあちゃんが大すきです。

おばあちゃんは本当に元気で毎日はたけのやさいのおせわをしています。おばあちゃんがつくったやさいは、お店で買ったやさいよりもおいしいです。

ぼくはピーマンがにがてだけど、おばあちゃんのはたけでとれたピーマンはたべられます。

ぼくが大きくなったら、こんどはぼくがおばあちゃんにやさしくしたいです。おばあちゃんのやさいをたくさんたべて力もちになって、もしおばあちゃんが歩けなくなったら、おばあちゃんをおんぶしておさんぽにつれて行ってあげたいです。

いつもやさしかったおじいさん

義務教育学校二年　鈴木 太智

鈴木 太智 さん
（新　間）

ぼくのおじいさんはやさしくていつもだっこしてくれるおじいさんです。でも一年生のときびょうきになってしまいました。

おじいさんとの思い出は、一年生の夏に、プールに行ったかえりにいっしょに、ソフトクリームをたべたことです。すこしむずかしい顔をしていました。

ほいく園のとき、すきなおもちゃをいっぱい買ってくれました。うれしかったことをよくおぼえています。

おじいさんのしごとばで、すきな、キャラクターを、いろいろな木のみとせっちゃくざいでつくりました。

ぼくが赤ちゃんのときいっぱいだっこをしてくれたことを、お母さんから聞きました。

ほいく園のとき、アメをとるゲームをしてくれました。アメがあまくておいしかったです。

おじいさんのすきなたべものはカツ丼です。「やわらかくておいしい。」と、言っていました。

いっしょにドライブに行こうと言ってくれました。風が気もちよかったです。

今は、おじいさんのしゃしんにむかって、せんこうを立てて、お母さんとおばあさんと、いっしょにおがんでいます。

これからも、見まもってください。

ぼくのおばあちゃん

義務教育学校二年　鷲谷 昊祐生

鷲谷 昊祐生 さん
（海 老 沢）

ぼくは、おばあちゃんといっしょにすんでいます。おばあちゃんはもうすぐ七十五さいになりますが、いつもぼくとあそんでくれるし、まだ元気にはたらいています。

田んぼのおしごともがんばっています。朝早くから夜おそくまけいトラックで出かけてはたらいています。

田んぼでは土入れ、たねまき、田うえ、草かり、水の見まわり、いねかりまで、いつもいそがしくしています。

だから今年は、ぼくもたねまきと田うえを手つだいました。

たねまきはおもいだしをはこびました。田うえは、だしをあらってきれいにしました。おばあちゃんはせっせとはたらいていて、すごいなあと思いました。

田んぼだけじゃなく、はたけのしごともいっしょうけんめいがんばっています。

今年ははたけにぼくの大すきなイチゴが大りょうになりました。きょ年あまり多くならなかったので、おばあちゃんもよろこんでいました。おばあちゃんとたべたイチゴはとてもおいしかったです。

おばあちゃんはたくさんしごとをがんばって、はたらきすぎなので、体はだいじょうぶかな、ときどきしんぱいになります。体をこわさないで、いつまでも元気でいてほしいです。そして、いつまでもおばあちゃんのつくったおこめやイチゴをいっしょにたべたいです。

おじいちゃんとおばあちゃんの仕事

義務教育学校五年　湊 心美

湊 心美 さん
（坂　本）

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、大事な仕事をしています。

おじいちゃんは、畑の管理とおふろそうじをしてくれています。畑でできた野菜は、わたしのお家にもってきて、あげたりいためたりして食べています。トマトやきゅうりをもってきてくれています。わたしが帰ってきて、おじいちゃんがいると、

「ここちゃんおかえり〜！」

と、とても元気に出むかえてくれます。おじいちゃんが畑から帰ってくると、いつもあせだくで帰ってきます。わたしたちのためにがんばってきてくれたんだと思うと、とてもうれしくなります。

おばあちゃんは、みそを売っているお店で、売店のレジをしています。わたしがおばあちゃんが働いているお店の売店に行くと、おばあちゃんがレジのところに立って待っていました。

「いらっしゃいませ！」

と、とても大きな声で出むかえてくれました。そのお店では、みそ味のソフトクリームも売っています。おばあちゃんがソフトクリームが出てくる機械を使って、つくってくれます。みそを買っているときに、おばあちゃんと一しょにおもしろい話をしていて、笑顔で話してくれます。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、わたしのためにがんばってくれています。わたしは、おじいちゃんとおばあちゃんのつかれをほぐすために、時々かたたたきをしています。二人とも、とても気持ちよさそうでした。わたしが今できることを考えて、これからもおじいちゃんとおばあちゃんを大切にしていこうと思いました。

大好きなおじいちゃんおばあちゃん

義務教育学校五年　田中 莉子

田中 莉子 さん
（大　倉）

わたしの、おじいちゃん、おばあちゃんはとてもやさしいです。

おじいちゃんは、去年まで、みそを作る仕事をしていました。わたしは去年の自由けんきゅうでみそのことを調べました。おじいちゃんの仕事がわかってとても楽しかったです。おじいちゃんは、いつもわたしをしんぱいしてくれます。今も、お父さんとお母さんがまっているとき、しんぱいしてきてくれます。そしてかっている犬のさんぽもしてくれます。この前わたしが、いちょうえんになり、学校に行き、いつもどおり留守番

をしていると、おじいちゃんがきてくれて、とてもうれしかったです。おじいちゃんの家に行った時も、じゃんけんをしたり、いっしょに遊んでくれます。夜ごはんでは、やきにくを食べたり、お肉をくれて、すごくすごくやさしいです。

おばあちゃんは、とても料理が上手です。おばあちゃんの料理では茶わんむしがとても上手で、買ってきた茶わんむしよりとてもおいしかったです。おばあちゃんが作る料理が、わたしは大好きです。おばあちゃんは、もう一つ上手なことがあります。それは、手芸です。おばあちゃんは手芸がとても上手で、いっしょに、バックや、ポーチを作ったりしています。わたしは今年から、家庭科がはじまりました。最初は手ぬいで、おばあちゃんに小さいころから手ぬいで物を作ったり、ぬい方を教えてもらっていたので、とてもすらすらできて、うれしかったです。わたしは、そんな、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きです。いままでわたしのことをしんぱいしてくれたりしていたので、これからは、おじいちゃんおばあちゃんを大切にしていき、楽しい生活をしていきたいと思います。

勇気を出して

義務教育学校五年　竹田　光希

竹田 光希 さん
（坂　本）

わたしは、もういつのことか、忘れたけれど、小さいときに、乗っていたバスに、お年よりが乗ってきました。バスの中は、ほとんど、あいている席がありませんでした。わたしは、「席をゆずらなきゃ。」と思って、お母さんのとなりにいこうと思いました。でも、「ほかの人がゆずるかもしれない。」と、正じきに、席をゆずることができませんでした。その後、年上の人が、お年よりに席をゆずって、お年よりは、席にすわりました。「どうして席をゆずれなかったんだろう。」お年よりの人は、席にすわれたけれど、わたしは少し、もやもやした気持ちになりました。今でも、あのときのことをわすれられません。勇気を出せずにいるわたしとちがって、席をゆずった年上の人が、すごくやさしくて、かっこいい人だと思いました。

今、もしバスや電車にのっていて、お年よりが乗ってきたとしても、席をゆずろうとして、立ち上がれないかもしれません。でも、席をゆずることは、はずかしいことでも、悪いことでもないことは、ほとんどの人が知っていると思います。でも、それでも席をゆずったりできないのは、勇気がたりないからだと、わたしは思います。勇気がたりなくて、動けないでいて、あとでもやもやした気持ちになってしまうのは、席をゆずること以外でも起こることです。これからも、いろいろなときに、お年よりに、親切にしなければいけない。もしくは、したほうがいいときがあるかもしれません。もしそのときに、親切にできたらすごいけれど、できないときも、一回はあると思います。でも、人生で一度きりしか、チャンスがないこともないと思います。一度失敗したら、次のチャンスをのがさない。そのくりかえしだと思います。わたしも、勇気を出して、がんばろうと思います。

僕の大好きな野球の神様

義務教育学校八年　安保　和真

安保 和真 さん
（綱 木 沢）

僕の祖父母は僕の試合があるとほぼ毎回応援にきてくれます。祖父母が応援にくると、不思議となぜかヒットが打てる様になりま

す。気持ちの問題かもしれませんが自然といいイメージがもてるようになります。つい最近も祖父母のおかげで（？）中総体の大事な場面で優勝を決めるサヨナラヒットも打つことができました。

僕の家は祖父母の隣にあるので僕が自主練をするときは短い時間でも必ず見に来てくれます。そのときいつも何かしら声をかけてくれるので「今日はもう終わろうかな…。」と思ったときにその言葉を思い出すともうひと頑張りすることができます。それは野球を始めた小学四年生からずっと続いています。その間に野球に対する気持ちや物事に対しての意識は色々変わりましたが祖父母からの気持ちは野球を始めてからの5年間で一回も変わったことはないです。

最後に、僕の好きなプロ野球選手が野球の神様はいつも身近にいて見守ってくれていると言っていました。僕はその言葉を初めて聞いた時、すぐに祖父母の顔が浮かんできました。僕はそのときに、祖父母に支えられているのを改めて感じることができました。そのせいか試合や大会のときにはいつも観客席を見て祖父母を探しています。野球の神様（？）が見に来てくれているかもしれないし、自分が活躍している所を見せてあげたいからです。

私のおばあちゃん

義務教育学校八年　鈴木 さくら

鈴木 さくら さん
（小 今 戸）

私には自慢のおばあちゃんがいます。家事や畑仕事、パッチワークなんかもチョチョイのチョイなのです。

そんな私の自慢のおばあちゃんももう今年で七十五歳。体も心のよゆうも無くなってもおかしくはないはずです。でも、私のおばあちゃんは「七十五歳だからといっても私の体はピンピンしとるよ。あなた達に甘えるのは、まだもう少ししたらだね。それまでは自分のできることを精一杯やるだけさ。」と、私に言ってきたことがありました。その日から私は長生きするおばあちゃんのことをずっと見守っていたいなと心から思いました。

私のおばあちゃんの長所はこれだけではありません。でも全部書くと作文からあふれ出してしまうので、残念だけど一つにしぼり込みます。それは、どんな願いも叶えてくれる某ロボットのような存在だ、というところです。畑でとれた野菜や手作りマスクなどを欲しがっている人に分けてあげているという話をおばあちゃんは得意そうに話してきます。最初の頃は適当に聞きながすだけだったけれど、最近は「すごい」という気持ちが自然に浮かんでくるようになりました。私も困っている人がいたらおばあちゃんのように助けてあげたいなと思いました。

いつもなら照れくさくて言えないけれども伝えたい思いはたくさんあることをこの作文で届けることができたらいいなと思います。

最後に一言、「いつも本当にありがとう。これからもよろしく。ずっと長生きして、おいしい野菜を食べさせてね。」

私の親友

義務教育学校八年　三輪　陽菜

三輪 陽菜 さん
（羽　立）

私のおばあさんは明るくて、優しくて、お茶目な人です。私はよくおばあさんに悩みやちょっとした愚痴をきいてもらいます。それに対して、「いいね、いいね。私も昔、そんな悩みあったなぁ。ま、大人になったらなつかしいい思い出になるよ。」と、のほほんとしたアドバイスが返ってきま

す。真面目にきいているとはあまり思えませんが、気づくと私も、「ま、いいか。」と、のほほんとした気持ちになっているのは不思議だなといつも思います。私とおばあさんはカラオケが好きで、よく二人で行きます。おばあさんの影響で小学二、三年の頃中島みゆきさんなどのいわゆる懐メロが好きだった私は、カラオケの採点機能を使って、おばあさんと競うのがお決まりです。いつも自信満々で歌う私ですが、一度しか勝ったことがありません。おばあさんは、歌が上手いのです。十八番の歌だと余裕で九十点以上がでてしまいます。勝った時にみせる、ドヤ顔は少し鼻に付きますが、どう頑張ってもおばあさんには叶いません。おばあさんは歌だけでなく料理も上手です。おばあさんの料理で好きなのは鶏肉をコーラで煮た、コーラ煮。あまり聞き馴染みのない料理だとは思いますがこれが本当に美味しいんです。おばあさんの料理はおばあさんにしかつくれないあたたかさを感じる味がします。おばあさんの料理は食べる人を笑顔にできます。それはその料理をつくっているおばあさんが人を笑顔にできるからだと思います。私はおばあさんの事を「とんか」と呼びます。これはとんかの友達が呼んでいるニックネームです。私がとんかをニックネームで呼ぶのは友達くらい親しい存在だから、ワガママな私だけど、これからも仲良しでいようね。

おじいちゃん

おばあちゃん

これからも、

末永く、お元気で

お過ごしください！